

令和2年度 島根県立情報科学高等学校 学校評価 (No. 1)

教育目標	重点目標等	担当	目標達成のための方策	評価項目	評価値の元データ	R2年度			評価	自己評価	改善策	学校関係者評価		
						平均	%	評価				評価	コメント	
魅力ある学校づくり	①魅力化コンソーシアムの構築と学校運営	魅力	・各専門部会と魅力化推進委員会の実施状況。 ・魅力化評価アンケート研修会とランドデザイン策定研修の実施。 ・コンソーシアムの団体共にプロジェクトを企画・実施する。	・各部会2回以上の開催	校内統計	—	4回	A	A	・各部会は2回以上の実施ができ、地域と連携した教育活動の実現に向けた協議をすることができた。 ・ランドデザイン策定に向けて研修や協議を行うことが積極的にできたし、全教員の意見集約をすることができた。 ・学校外の方が本校の生徒に直接的、間接的に関わっているが、その効果が学校全体に波及していない。	・部会によって実施回数や内容に差があり、活発でない部会もあったので、年度初めに方針を固めて計画し、定期的に部会を開催する。 ・地域の方が教育に携わっていることを常に全体に周知すると共に、地域連携の教育活動自体を増加させる。	A	・文部科学省への提出ポスター絵では魅力化推進委員会・各部会を月1回開催となっているが、教職員の皆さんの負担を考えると難しいのではないかと。実施回数を少なくしてはどうか。	
				・研修会の実施回数4回以上。	校内統計	—	8回	A						
				・学校外の方が、本校生徒に関わっていることを感じることが増したと考える教員の割合	教員アンケート 20	2.9	68	B						
	②専門性の深化	商業	・ICT機器や教材を活かした質の高い授業に向け、改善を重ねる。 ・情報ITフェアのオンライン開催。	・島商研表彰生徒(1級2種目以上)の割合が3年生の10%以上。かつ、情報処理国家資格・日商簿記検定2級取得者が合わせて5名以上。	校内統計	—		A	A	・島商研表彰生徒(1級2種目以上)3年生10名、ITパス4名、日商2級1名の合格者があり、目標を達成できた。 ・初のオンライン開催となった情報ITフェアであったが、魅力化推進部を中心に準備を進め、意義のある行事とすることができた。	・教員の教材研究の深化や生徒に対する情報発信の活性化。さらにICT機器の利用をさらに進め、授業の質の向上を図る。 ・生徒の達成感も概ね高い水準であるが、改善点を精査し、今後の諸活動に生かしていきたい。	A	・検定試験等の合格目標をクリアできており、素晴らしいと思った。生徒たちの成功体験となり自信になると思う。	
				・情報ITフェアに関する活動を有意義なものにできたという生徒の割合	生徒アンケート 5	3.2	85	A						
				・来年度から導入するe-Learningについて、教科や学年会の枠を超えて、学校全体で検討しているとする教員の割合	教員アンケート 24	3.0	79	B						
	③新しい学習基盤づくり(次年度へ向けての準備)	教務 魅力 DIP	・学びの自立化、個別最適化を実現するために、関係部署と連携して体制の確立をはかる。BYOD実現に向けた協議、機器と学習ツールの選定、校内と中学校への周知を行う。 ・新学習指導要領の施行に向けて、情報科学高校にふさわしい教育課程を編成する。 ・教員や生徒へのICT研修実施。	・来年度から導入するe-Learningについて、教科や学年会の枠を超えて、学校全体で検討しているとする教員の割合	教員アンケート 24	3.0	79	B	A	・DIPや教科主任会を中心に使用端末とe-Learning教材(リクルート社)を10月に選定し、中学校へも周知することが出来た。具体的な運用については、現在検討を進めている。 ・昨年度の67%が94%に上昇した。新教育課程の編成、教育通信サービスの導入、コロナ対応などが議論の中心であった。ご協力感謝したい。 ・新型コロナウイルス感染症の拡大に備えて、オンライン授業を試行した他、校内研修も積極的に実施することが出来た。	・サービスの教員が体験できる環境を整え、具体的なイメージが持てるように努力したい。また、端末を含め、有意義に活用するスキルを教員・生徒共に高める必要があり、研修を継続していく。 ・来年度も議題も山積している。活発な議論を通して、協力体制を築いていきたい。 ・整備されたGsuiteを日頃の授業から積極的に活用する、課題発言を行うなどを推進するよう、啓発を行う。	A	・コロナ禍の中、他校では様々なイベントが中止となる中、オンラインで情報ITフェアを成功させたことは素晴らしいことと思う。 ・メディア等で取り上げられている所を見たが、より多くの連携と参加、そしてその周知を図ることが大切であると思う。	
				・教科会、教科主任会を通じて十分な情報提供や議論がされているとする教員の割合	教員アンケート 25	3.2	94	A						
				・新型コロナウイルス感染症の次の波に備えたICT研修を受けているとする生徒の割合	生徒アンケート 6	3.7	96	A						
	社会人としての規範意識や倫理観を身に付けた感性豊かな人間の育成【人間の育成】	①基礎・基本の徹底	教務 生徒	・望ましい授業態度を育成する。 ・家庭学習の習慣を身につけさせる。 ・基礎学力向上講座や定期試験前特別講座など、学業不振者への対応を充実させる。 ・常に笑顔で気持ちの良い挨拶をするよう意識させる。 ・全体での日常的な服装指導の徹底と継続的な声かけを実施する。 ・登校時に携帯電話を貴重品ロッカーに保管するよう指導する。	・授業に真剣に取り組んでいる生徒の割合(生徒肯定回答9割)	生徒アンケート 2	3.5	99	A	B	・年々授業に真剣に取り組んでいる生徒の割合が増加していることは喜ばしいことである。 ・過当たりの授業時数や教科の特性もあるが、宿題や課題の量について、教科・科目間に差があることは否めない。 ・宿題や課題で終わりの生徒が多い。 ・休校の関係で、長期休業中の基礎学力向上講座は予定の半分しかできなかった。定期試験前の補習は昨年度から日程を2週間に延長している。 ・全体的に高い評価をいただいた。学期2回の服装頭髪指導に加え、今年も学年会とも協力して計画的、日常的に指導することができたのが良かった。 ・違反者に対して教職員全体で継続指導することで、校内の風紀や秩序を保つことができた。 ・登校時の昇降口での挨拶や職員入室、各種手続き等においての挨拶・言葉遣い等の指導も多くの先生方の協力で積極的に行うことができて良かった。	・「分かる授業」「考える授業」の実践を推進し、生徒の期待に応えるべく努力したい。 ・教科主任会において各教科の指導計画を念頭に、課題の内容や量について情報を共有する。 ・補習受講者の定期試験の得点と評価をまとめ、その効果を検証する。一方、効果が直ぐに出なくても、学力保障の観点から継続していく。 ・校則等について、生徒会を中心に全校生徒へ周知徹底すると共に、必要な変更や訂正などについても積極的に検討し、よりよい学園生活が送れるようにしていきたい。 ・生徒によってはまだまだ挨拶ができていない者もおり、校内外において気持ちの良い挨拶ができるよう、日常的な挨拶行動を呼びかけていきたい。	B	・進学校ではないので、家庭学習への取り組みを習慣化させることはたいへんな課題。ただ、学習することが将来どれだけ役立つのか、どう活かせるのかを教える必要があると考える。  ・家庭学習を「やらされていること」から「自らやること」へ意識の変革をさせることが必要。  ・「気持ちのいい挨拶ができる」ことは将来の財産になるので、引き続きのご指導を期待している。
					・家庭学習を習慣化させるための適切な指導ができたとする教員の割合(教員肯定回答9割)	教員アンケート 4	2.8	74	B					
					・家庭学習に真剣に取り組んでいる生徒の割合	生徒アンケート 3	2.6	63	C					
・各講座が有効だとえている教員の割合					教員アンケート 7	3.0	79	B						
・服装・頭髪等の校則をきちんと守っている生徒の割合					生徒アンケート 12	3.6	96	A						
・基本的な生活習慣(挨拶、身だしなみ、時間厳守等)が確立していると感じている保護者の割合					保護者アンケート 11	3.3	89	A						
・服装・頭髪の指導や遅刻防止などの基本的な生活態度に関する指導ができたとする教員の割合					教員アンケート 8	3.2	94	A						
②自己有用感に裏付けられた肯定感の醸成		生徒	・J S制度の導入により、上級生としての責任感の醸成と実践力の向上を図る。 ・J S委員と連携し、生徒会活動の充実を図る。	・生徒会やJ S制度を通して、生徒自らが学校行事等を運営できたと感じている生徒の割合	生徒アンケート 23	3.0	74	B	B	・コロナ禍の影響で、生徒会やJ Sが自主的・積極的に活動する場が少なかった。	・生徒会やJ S制度の新しい活動について検討し、今まで以上に自己有用感を得られるような組織づくりをする。	B	・身だしなみ・挨拶ができるなど、基本的な生活習慣が確立している評価が高いことは学校の評価にもつながり、とても良いことです。今後も継続できるようご指導お願いします。	
				・育成したい資質・能力を明確にしたキャリア・パスポート作成に向けて意見集約し、周知を図る。	本校教育目標を受けて作成した、キャリア・パスポートについて共通理解を持っている教員の割合	教員アンケート 22	2.7	68						B
				・PBL方式インターンシップの実施(本年は2年生のキャリア基礎での地域学習にて代替)。	・インターンシップお進路の参考となると感じた生徒の割合。(本年は地域への理解が深まったと感じた生徒で代替)	生徒アンケート 18	3.2	87						A
④主体的・協働的な課題解決学習		商業	・PBL方式インターンシップの実施(本年は2年生のキャリア基礎での地域学習にて代替)。	・自己を肯定的に捉えている生徒の割合	生徒アンケート 14	2.6	57	C	B	・年度が始まってからの中止決定であったため、代替行事として、地域探究活動を行った。これに関連して地域団体との協力関係を構築することができた。 ・学習の達成内容はやや浅く、表面的な調べ学習になった。	・自己肯定感に関しては、自信を持たせる取り組みを心がけた。出来ない事を責めるより、出来たことを褒め、達成感や自信を持たせたい。 ・差別や人権問題に関しては、意識調査を基に生徒の要望を検討し有効な内容を積極的に取り入れていきたい。	A	・コロナ禍の現在、コロナ差別などの人権問題についての授業など積極的に取り入れていただき、感謝している。未知なウイルスに対して正しい情報を発信していただき心健やかに高校生活が送れるよう支援を願います。 ・相談体制があり、安心して気軽に相談できることを生徒・保護者に継続的に伝えていきたい。 ・生活アンケートでいじめなどの現状を把握することはとても重要な事であるが、先生方の負担が大きくなりすぎないように、調査・集計・面談・会議等の簡略化しスピーディーに対応できるように検討していきたい。	
				・差別や人権問題を自らの問題として捉えている生徒の割合	意識調査	—	79	B						
	・人権に関するHR活動が自分を見つめ直す機会になったと感じている生徒の割合			生徒アンケート 9	3.4	89	A							
①確かな人権感覚の涵養	人権 同和 教育	・生徒の実態に基づいたホームルーム活動の計画と実施及び振り返りを行う。	・先生は、生徒の生活の悩みについて誠意をもって相談のつてくれると感じている生徒の割合。	生徒アンケート 15	3.1	84	A	A	・「相談だより」などにより、相談機会の周知を図り、利用率が高かった。 ・学年会や明推会との連携、保健室の利用状況の観察により、相談が必要と思われる生徒を把握してSCに繋ぎ、本人・保護者や担任に有効なアドバイスが得られた。 ・生活アンケートについては、昨年度から実施方法を変更したものを継続して実施した。その結果をもとに担任による面談やいじめ防止検討委員会において共有することができた。 ・学校生活での悩みを相談できた生徒が少ない結果となったことについては、コロナ禍でアンケートの回数が減ったことや我々の相談しやすい雰囲気づくりに工夫が必要であったと思われる。	・校内には相談体制があることを伝え、安心して気軽に相談できる雰囲気づくりに努めていきたい。	A	・オンライン開催の情報ITフェアにおける部活動紹介動画を見ましたが、これを改良・充実させて来年度の新入生に見てもらってはどうか。		
			・情報科学高校は、生徒や保護者から、様々な相談ができるよう配慮していると感じている保護者の割合	保護者アンケート 4	3.3	93	A							
			・生徒や保護者の悩みや相談ごとに、誠意をもって対応している教員の割合	教員アンケート 16	3.5	100	A							
			・生活アンケート等を通して、学校生活での悩みなどを相談することができた生徒の割合	生徒アンケート 24	2.9	73	B							
			・生活アンケート等を通して、生徒の人間関係などを把握し、組織的に対応することができたと感じている教員の割合	教員アンケート 23	3.4	94	A							
			・部活動紹介や部活動体験期間の内容の充実を図る。 ・1年生学年会と連携を密にし、加入者が90%を増えるよう努力する。	・部活動やその他の学校行事に熱心に取り組むことができた生徒の割合	生徒アンケート 13	3.5	93						A	A
・1年生の部活動加入率90%以上	校内統計	—	94	A										
②生徒理解に基づく組織的な対応	保健 生徒	・スクールカウンセラーを活用した教育相談の実施。 ・明るい学校推進委員会で個別の生徒に必要な支援を協議し、共通理解のもとで支援。  ・生活アンケートの実施及び活用し、情報の共有と組織的対応で指導する。	・自己を肯定的に捉えている生徒の割合	生徒アンケート 14	2.6	57	C	B	・自己肯定感に関しては、自信を持たせる取り組みを心がけた。出来ない事を責めるより、出来たことを褒め、達成感や自信を持たせたい。 ・差別や人権問題に関しては、意識調査を基に生徒の要望を検討し有効な内容を積極的に取り入れていきたい。	B	・コロナ禍の現在、コロナ差別などの人権問題についての授業など積極的に取り入れていただき、感謝している。未知なウイルスに対して正しい情報を発信していただき心健やかに高校生活が送れるよう支援を願います。 ・相談体制があり、安心して気軽に相談できることを生徒・保護者に継続的に伝えていきたい。 ・生活アンケートでいじめなどの現状を把握することはとても重要な事であるが、先生方の負担が大きくなりすぎないように、調査・集計・面談・会議等の簡略化しスピーディーに対応できるように検討していきたい。			
			・差別や人権問題を自らの問題として捉えている生徒の割合	意識調査	—	79	B							
			・人権に関するHR活動が自分を見つめ直す機会になったと感じている生徒の割合	生徒アンケート 9	3.4	89	A							
③人格形成の場としての部活動の推進	生徒	・部活動紹介や部活動体験期間の内容の充実を図る。 ・1年生学年会と連携を密にし、加入者が90%を増えるよう努力する。	・部活動やその他の学校行事に熱心に取り組むことができた生徒の割合	生徒アンケート 13	3.5	93	A	A	・入部率(1月現在)は全体で81.4%と例年と比較しても低い。2年生の入部率が71.4%と特に低く、中途入部の働きかけが必要ではないか。 ・1年生は90%を超えており、部活動の活性化としては成功したといえる。	B	・オンライン開催の情報ITフェアにおける部活動紹介動画を見ましたが、これを改良・充実させて来年度の新入生に見てもらってはどうか。			
			・1年生の部活動加入率90%以上	校内統計	—	94	A							
			・生活アンケート等を通して、生徒の人間関係などを把握し、組織的に対応することができたと感じている教員の割合	教員アンケート 23	3.4	94	A							

※「平均」欄は、評価(あてはまる=4 ある程度あてはまる=3 あまりあてはまらない=2 あてはまらない=1)を平均したものの

※「評価」欄の基準は肯定的評価の%: A=80%以上 B=65~79% C=50~64% D=50%未満

令和2年度 島根県立情報科学高等学校 学校評価 (No. 2)

教育目標	重点目標等	担当	目標達成のための方策	評価項目	評価値の元データ	生徒評価			評価	自己評価	改善策	学校関係者評価									
						平均	%	評価				評価	コメント								
普通教育ならびに情報・ビジネスに関する専門教育を施し、健康で、心豊かな人間性を育成する ①地域を担う、情報・ビジネスに関する将来のスペシャリストの育成【専門性の育成】 ②社会人としての規範意識や倫理観を身に付けた感性豊かな人間の育成【人間力の育成】	進路実現に向けた支援	進路	・感染症の状況を把握しながら、可能な限り、各学年の進路計画に沿って、企業説明会・企業見学・進路ガイダンス・講演会などを実施する。	進路に関する行事が有意義であると感じている生徒の割合	生徒アンケート17	3.5	94	A	A	オンラインの活用は講師側(相手側)の対話技術も必要であり、内容が生徒に伝わりにくいこともあった。また進路主導となり、学年部との連携がうまくいかない場面もあった。	来年度もオンラインの活用や急な変更が予想される。学年部との連携を密にし、生徒の進路意識を高める行事を実施する。	A	・1、2年生のうちにやっておけば良かったことについて卒業生アンケートを実施し、1、2年生の参考にさせてはどうか。								
			・生徒・保護者・企業・ハローワークおよび上級学校と連携を取り、的確な情報を得る。面接・小論文等の全校体制を強化する。	進路先が決定している生徒の割合	校内統計	—	90	A	A	進学推薦、就職選考試験が重なるため早期からの指導を予定していた。進学については概ね実行できたが、就職については、9月末まで応募前職場見学が続き、後手に回るが多かった。	進学希望者への小論文指導(入試改革対応)、就職希望者の面接指導のスタート時期・指導体制等について、学年部と連携し改善する。	A	・面接試験では、画一的な態度・受け答えである。個性・特徴を発信されるよう望む。								
			・利用しやすいように資料を整理し、生徒・保護者に求められている情報を迅速に提供する。	適切な進路情報が提供されていると感じている保護者の割合	保護者アンケート6	3.5	96	A		A	参考書・情報誌を刷新し、貸出・可とし、進路指導室前の閲覧スペースを広げたが、1・2年生の利用が少なかった。夏に1・2年生希望者対象に進路ガイダンスを急遽開催したが、参加者が少なかった。	最新の参考書・情報誌の購入を進める。1・2年生の進路意識高揚が大きな課題であり、スタディサプリや教室掲示、進路日より等で生徒・保護者への情報発信に努める。	A	・引き続き丁寧な小論文指導を望む。							
	総務 生徒	①安全意識の高揚	・防災教育・避難訓練の実施(年3回)	災害発生時に適切に行動し、安全に避難することができる生徒の割合 肯定的評価の割合75%を目指す	生徒アンケート8	3.3	91	A	A	・今年度はコロナ禍の中で、密になる形式での避難訓練は回避し、学年毎や映像視聴など工夫して実施できた。	・いざというときにどう動くべきか、生徒が自分のこととして考えられるような訓練のあり方を工夫したい。	A	・自転車の施錠が徹底されていないのではないか。さらなる自転車の施錠の指導をお願いしたい。								
			・街頭指導(春・秋の交通安全運動週間)	・自転車のマナーを守り、事故防止に努めている生徒の割合	生徒アンケート11	3.8	99	A		・自転車マナーについては、外部より注意喚起の連絡は1件のみ(ながらスマホの接触)で、今年度は非常に良かった。	・並進運動及び「ながらスマホ」についてより重点的な交通安全指導を展開していく。		・生徒アンケートでは、ほとんどの項目で肯定割合が増えており、真面目な生徒像を感じる。								
			・鍵かぎ運動の実施(施錠率100%を目指す)	・交通安全や社会のルールを理解させ、公共心を育てる指導ができた教員の割合	教員アンケート9	3.4	97	A		・春秋の交通安全週間には街頭指導を実施したが、大きな問題もないとの報告を受けた。	・自転車置き場での施錠確認は年間を通して継続的な活動を実施していきたい。		・保護者アンケートでは、1項目を除き肯定割合が増えている。学校に対して好意的に見ていただいている。								
	信賴される学校づくり	教務	②学習内容と指導の充実	・授業改善、授業公開、授業評価のサイクルを通じて、教科指導力の向上と充実を努める。	・公開授業、授業参観を合わせて5回以上行った教員の割合(校内統計10割)	校内統計	—	92	B	A	・1月末の達成率は92%である。昨年度の反省を踏まえ、実施期間を3期に分け、「対話的・主体的な授業」をテーマに実施した。また、人権・同和教育HRの参観を促し、教員研修につなげた。	・今年度の反省も踏まえ、さらに授業改善につながる公開授業のあり方を模索したい。	A	・「分かる授業」「考える授業」「学力がつく授業」を追求し、授業に充実感を感じる生徒の割合がさらに高まるように努力する。							
				・主体的、対話的で深い学びの実現を目指し、研究に努める。	・教員の授業を肯定的に評価している生徒の割合	生徒アンケート7	3.1	88	A		・約9割の生徒が肯定的な評価をしている。	・教員が意識をして授業改善に取り組んでいる成果と思われる。		・先生方が努力・工夫をされ魅力的な授業をされている。学ぶことが楽しいと思う生徒が増えていることと思う。							
				・主体的、対話的で深い学びを意識した授業を展開した教員の割合(生徒授業評価アンケートの評価3.5以上)	・授業改善の割合	授業アンケート	3.6	—	A		・中学生向けのプレゼンや動画の作成は魅力的な画像や映像を揃えてデザインしPRできた。	・コロナの影響で、地元中学校への説明会が動画になったが、編集力で乗り越えた。来年はさらに動画の改良を行う。		・他校の学校案内等も参考に、より本校の魅力や生徒の様子が伝わる学校案内を作成したい。							
	教務 魅力 商業	③小中学校との連携	・中学校で開催される学校説明会等に積極的に参加する。	・中学生や保護者に関心を持ってもらえるようなプレゼンや学校案内を作成できたと考えられる教員の割合	教員アンケート26	3.1	91	A	B	・中学校訪問による学校紹介に代えて、DVDを作成した。学校案内には文科省指定校や来年度から実施するタブレット学習を掲載した。	・中学校への出張講座や、学校開放講座も積極的に開催できた。小学校教員向けの研修をきっかけとして、出張講座の依頼も増加した。実際には種々の活動を行っているが、校内で周知が不足していると思われる。	・中学校との連携	・連携ができたと感じている教職員の割合	教員アンケート19	2.7	65	B	・学校開放講座や出張講座は一部の教員のみで企画運営したため、より多くの先生方と連携して実施するよう組織的な体制を整える。	・校内の教職員にも活動の内容が周知できるようHP・職員会議での報告など情報発信を積極的に行う。	B	・高校に対する関心の高まりを感じる。入学してきた生徒の実際の声を拾って、さらに充実したオープンスクールを期待する。
			①学校開放講座の毎月実施	・県外での積極的なPR活動ができたと感じている教員の割合	教員アンケート27	2.9	71	B		・アクセスは今年度初めて3回すべてカラー印刷にしたことでより手に取ってもらいやすくなったと考えている。	・オープンスクールは2回合計で131名の中学生に参加していただき、募集定員を超える数の参加があったが、引き続きより多くの参加と内容の充実を努めていきたい。	・アクセス人数は12月～1月で約2,200人であった。12月5日6日の閲覧数が最も大きかったが、年末年始の期間の閲覧も次いで多く、中学生が本校を志願のための情報検索として閲覧があったと考えられる。	・保護者がさらに興味深く感じる内容にするために、PTA担当役員との意見交換をより密にしている。	・オープンスクールでの部活動見学や体験・説明なども生徒募集を兼ねて、充実させていきたい。	・情報ITフェアは来年度も魅力的なコンテンツを集めて効果的な情報発信に努めたい。	A					
			②出前授業の実施	・PTA会報等、配布物を読んでいる保護者の割合(肯定的評価75%を目指す)	保護者アンケート7・8	3.2	83	A		・オープンスクール参加者が募集定員を上回るようPRする	・アクセス数1,000人以上	校内統計	—	131名	A	—	2,200名	A	—		
総務 魅力	④地域との連携・PR活動	・PTA会報「アクセス」の発行	・PTA会報等、配布物を読んでいる保護者の割合(肯定的評価75%を目指す)	保護者アンケート7・8	3.2	83	A	A	・アクセスは今年度初めて3回すべてカラー印刷にしたことでより手に取ってもらいやすくなったと考えている。	・保護者がさらに興味深く感じる内容にするために、PTA担当役員との意見交換をより密にしている。	A	・オープンスクール参加者が募集定員を上回るようPRする	・アクセス数1,000人以上	校内統計	—	131名	A	—	2,200名	A	—
		・情報ITフェアのオンライン開催	・オープンスクール参加者が募集定員を上回るようPRする	校内統計	—	131名	A		・アクセス数1,000人以上	校内統計		—	131名	A	—	2,200名	A	—			
		・アクセス数1,000人以上	・アクセス数1,000人以上	校内統計	—	131名	A		・アクセス数1,000人以上	校内統計		—	131名	A	—	2,200名	A	—			

※「平均」欄は、評価(あてはまる=4 ある程度あてはまる=3 あまりあてはまらない=2 あてはまらない=1)を平均したものの

※「評価」欄の基準は肯定的評価の% : A=80%以上 B=65~79% C=50~64% D=50%未満